

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	8	学校名	岐阜城北高等学校
------	---	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	文武両道を実践し、確かな学力と豊かな人間性、健やかな心身の育成に取り組む高校として 地域や企業、大学等と連携・協働した専門的で探究的な学びを通して 地域や社会が抱える課題解決に向けて主体的に参画できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 心身の錬磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組み、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲ある生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力の定着と、目的をもって自主的・主体的に学ぶ生徒の育成 社会の変化に柔軟に対応し、地域社会の発展に貢献できる生徒を育成するための「探究的な学び」の構築 魅力的で特色のある教育課程の編成と、本校の魅力を発信するための広報活動 生徒の多様な進路希望を実現するための進路指導の充実 基本的生活習慣の確立と、社会の一員としての基本的なマナーの育成 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	基礎的・基本的な学力の定着を図り、目的をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。 授業を大切に、生徒一人一人が授業で充実感をもてるような指導方法の工夫、分かる授業、活気あふれる授業に努める。	
	進路指導	地域の企業や関係機関と連携して地域の様々な課題について取り組むなかで、多様な人と協働して学ぶ姿勢を育む。 学科の特性や専門性をさらに活かしたキャリアデザインを具体的に描けるような場を創造し、多様な進路希望を実現させる。	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。 基本的な生活習慣の確立をはかる。 自他の「生命」を尊重する態度や思いやりの心を育てる。 安全で安心して生活できる学校をめざす。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> スクールポリシーが目指す豊かな人間性・健やかな心身を育む。 探究的な学習活動を通して、社会に貢献できる人材を育成する。 各学科・系列の特色ある教育活動を推進することで、専門性を深化させ、キャリア教育を推進していく。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	定期考査に向けた出題範囲表を配付する等、生徒が学習活動に積極的に取り組めるようにする	施策Ⅱ-8	・学校評価アンケート結果 ・学習成績の推移	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において研究授業を実施し、多くの先生方の参観をはじめ、県教委からも指導主事の先生を招き、授業反省会を実施した。また、中学校の授業を参観させていただいた。 今年度、「レインボーウィーク」を設定し、基礎学力向上のための取組を実施した。特に1年生においては動画を使った学習を行った。 令和8年度から「JIP」の本格実施に向け、教材等の準備をはじめ、中学生への広報も行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度よりも成績不振者数が減少し、授業等にも落ち着いて参加する生徒の姿が見られた。その一方で、家庭での学習習慣が身に付いていない生徒も多く、基礎学力の定着とともに学ぶ楽しさ、達成感が得られるような場面の工夫が必要である。 ○研修により、自らの授業を振り返り、新たな実践のヒントを得ることができた。分かりやすい授業につなげたい。 ▲「レインボーウィーク」を実施したが、その必要性(雰囲気作り)、ネットワーク環境の整備等、引き続き、多くの課題がある。 	
	研究授業及び中学校の授業参観等を通じ、指導内容や効果的な指導方法を研究し、指導力向上をはかる	施策Ⅱ-8	・新しい授業・科目の設定の準備状況				
	高校での学びをスムーズに、より深いものとするよう、基礎的・基本的な学力の向上をはかる	施策Ⅱ-8	・各種アンケート結果 ・授業研究会反省				
	新しい授業・科目(「JIP」)の設定を通じて魅力ある教育課程を編成する	施策Ⅳ-20					
進路指導	「城北塾」で、将来の地域産業を担うリーダー的人材の育成を行う	施策Ⅱ-14	・授業進捗度(目標比較) ・実力診断テスト結果	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション(自分の意見を論理的に伝えながら、グループで意見をまとめるトレーニング)を定期的実施。また、ClassiのAI分析を利用して、苦手分野の学習に各自が取り組んだ。 ・R7.8月に全員でオープンキャンパス(関西大学・関西外国語大学・名城大学など)に参加した。事前に研究してきた内容と実際に感じたものの違いを分析した。 ・地域企業との連携による新しいキャリア教育を軸とした探究活動で、企業が抱える課題に取り組むことで、社会と直結した学びを構築した。 ・現在指定校の無い大学を中心に参加した。また、新しい高校生との関わり方に積極的な企業との懇談を複数回実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○実力診断テストの結果は、全体平均は平行線(個別により変化に違いあり)である。大半の生徒が志望校のボーダーラインよりやや上のGTZを維持している。 ○「進路意識が明確に高まった」と答える生徒がほとんどだった。また、引率教員も約20年ぶりの参加となる先生が多く、大学の現状を知る良い機会となった。 ▲正解のない探究活動において、教員がどこまで介入し、どのように生徒を支えていくかという「伴走の在り方」そのものが大きな課題となっている。 ○入試説明会へは10校、就職懇談会へは4回参加。 	
	「城北塾」で、進路先に応じたきめ細かな進路指導を実施する	施策Ⅱ-10	・実施者アンケート (生徒、教員、保護者)				
	城北推進部と連携し「新しいキャリア教育」における地域企業との連携を深めた教育を実施する	施策Ⅱ-13	・実施者アンケート (生徒、教員、企業)				
	大学入試説明会や就職懇談会に積極的に参加することで、教職員の資質や指導力を向上させる	施策Ⅳ-26	・参加件数				
生徒指導	「させる指導」から「支える指導」へ意識をシフトさせ、まずは自らを律する姿を待つ	施策Ⅰ-1	・学校評価アンケート ・実施者アンケート(職員)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果は、生徒・保護者ともに昨年度から大きな変化はない。 ・できないことを頭ごなしに指導するのではなく、生徒の言い分を聞いたり、意義を話して聞かせたりすることで、生徒が自ら律する姿を待ち、少しでも変化が見られたら認めるような言葉かけをした。 ・生徒の些細な変化にもアンテナを高くして気づけるようにし、支援の必要な生徒については、生徒との関係性や状況に応じて職員で役割分担をして支援にあたり、臨機応変に対応することができた。また、外部機関と連携して支援にあたった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや暴力行為などの問題行動は今年度は比較的少なく、学校全体が落ち着いてきていると感じる。職員のアンテナが高くなり、未然に適切な支援や指導ができていた。 ○特別な支援が必要な生徒について、外部機関や医療、特別支援学校の教員と連携して支援にあたることができた。 ▲一部ルールの守れない生徒がいる。他の生徒から不満が出ないよう、保護者と連携して根気よく指導にあたる必要がある。 	B
	いじめや差別、暴力行為などの早期発見に努め、「チーム学校」として対応にあたる	施策Ⅰ-3					
	ルールやマナーを守ることに、社会の一員となった時を見据えて指導をしていく	施策Ⅰ-7					
	職員間で広く情報を共有し、生徒の「心」のサインを見逃さないように全員体制で臨む	施策Ⅰ-3					
その他	地域や企業、大学等と連携・協働した探究的な学習活動を通して、社会に貢献できる人材を育成する	施策Ⅱ-13	・学校評価アンケート ・授業評価アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題探究型推進事業や総合探究、コースの特色を生かした地域連携活動を通して、企業・行政・教育機関と関わる学習を進め、キャリア教育につなげる。 ・常に変化する社会情勢や業界の動向に合わせて、生徒にとって真に魅力的かつ将来に直結する企画を立案することができた。 ・学校評価アンケートでは、「外部連携を生かした教育活動」が71~74%と、昨年度より約1割増加し、取組の広がりが示されている。また、「コンクールや検定への積極的な取組」には85%が肯定的で、知識・技術の定着や専門性の深化につながっていると評価されている。 ・自然体験学習を計画通り実施し、豊かな人間性の育成を図った。また、活動後の振り返りを通じ、学びを日常の学習意欲へつなげる仕組みを導入した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域と連携した協働学習により、生徒の地域理解や主体性、専門的スキルが向上し、出前授業やPR活動の機会も拡大した。今後も総合探究と連携しながら、さらに発展・充実を図りたい。 ▲「専門性の深化」が「納得のいく生き方」へと昇華されるよう、外部連携を柔軟に取り入れ、時代に即した教育内容へとアップデートし続ける仕組みづくりが必要。 ▲外部連携やPR活動の拡大は学科の魅力発信に寄与する一方、準備負担が増え授業への影響が懸念されるため、教育効果につなげる工夫や効率的な準備体制の構築が必要である。また、保護者や地域への情報発信をさらに充実させる必要がある。 ▲自然体験で得たエネルギーを、以下に具体的な「学力の底上げ」へと転換させ、最終的な「進路実現」に結びつけるか、その接続の仕組み作りが今後の重要な鍵となる。 	
	各学科・系列の行事を推進することで、専門性を深化させ、キャリア教育を推進していく	施策Ⅱ-14	・交流活動の実績				
	外部人材・施設を活用し、地域資源を生かした学習を行い、産業を担う人材の育成する	施策Ⅱ-14	・実施者アンケート (生徒、教員、連携先)				
	自然体験学習の実施を通して、豊かな人間性・健やかな心身を育む	施策Ⅱ-8	・各種検定、コンテストの実績				

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年 1月29日

<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者は減少し、授業への参加状況は改善したが、家庭学習習慣の不足が課題であるため、基礎学力の定着と学習の達成感が得られる授業づくりを行う。 ・より分かりやすい授業づくりのため、ICTやAI活用など授業改善の視点を得られる教員研修を行う。 ・レインボーウィークについては、目的の明確化やネットワーク環境の整備など、よりスムーズな運営となるよう引き続き課題の改善を行っていく。 ・探究活動における教員の関わり方や「伴走の在り方」が大きな課題として残っているため、探究活動における教員の役割や生徒とのかわり方について、改めて理解を深める。 ・いじめや暴力などの問題行動は比較的少なく、学校全体が落ち着いてきており、教職員が早期に気づき適切に支援できているため、引き続き「報告・連絡・相談」により連携した対応を行う。 ・特別な支援が必要な生徒については、外部機関・医療機関・特別支援学校と連携しながら支援を進める。 ・地域連携活動により生徒の主体性・専門性が向上し成長に繋がるため、時代に沿った地域連携の仕組みづくりや、PR活動拡大に伴う準備の負担軽減に努め、より良い地域連携活動ができるよう工夫する。 ・自然体験の学びを学力向上と進路実現へつなげるような仕組みづくりを行う。
--

学校関係者評価 実施日：令和8年 1月29日

<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜城北高校の生徒が行っている地域活動は、地域の活性化に貢献するとともに、生徒の社会性や主体性を育てる重要な学びとなっている。こうした取組を課題研究や総合的な探究の時間など、授業時間内に位置付けることで、より多くの生徒が地域と関わり、学びを深めることができると考える。 ・中学生の進路希望調査では定員割れの厳しい状況が見られるが、このような中でも城北高校が新しい目的意識をもって教育活動に取り組んでいることは、今後必ず成果につながると期待している。学力の向上に加え、会話力やコミュニケーション力の育成が一層重要であり、幼稚園・小中学校との連携を深め、学力の土台を共有していくことが必要である。 ・レインボーウィークについては効果測定を行い、短時間学習の成果を可視化することで、生徒の意欲向上につなげられるのではないかと考える。生徒指導については、対話を重視した寄り添う指導が適切に行われている一方、指導の方向性や基準を共有することも大切である。 ・多様な教育活動が行われているからこそ、それぞれの育成目標を整理し、体系的に見える化することで、教職員の共通理解を深め、負担の軽減につなげる必要がある。新しい活動を増やすだけでなく、既存の取組の見直しや精選も重要である。 ・城北塾やZIPプログラム、リアル課題学習などは、知識だけでなく、考える力・表現する力・他者と協働する力を育てる優れた取組であり、IQだけでなくEQを高め、他者から信頼され尊敬される人を育成する教育が実践されていると感じた。
